

# 実践報告 札幌市立屯田北中学校

## (1) 研究内容

研究課題：「人権教育を基盤とした学校づくり等に関する研究」  
 ○ 支え合い、認め合う豊かな人間関係能力の育成

## (2) 実践の内容

### 【実践①】学校全体で計画的に取り組む人権教育

#### ○ ねらい

アイヌ文化、いじめ問題、障がい・福祉・LGBT など幅広く人権について考える場を総合的な学習の時間、道徳、特別活動で展開することで、様々な場面で人権や命の尊さ等に対して真摯に向き合い、感じ、考える、人権感覚をもった生徒を育成する。

#### ○ 学習内容

- ・ いじめを題材とした道徳を 2 学期に各学年で実施する。
- ・ 命の尊さに関する講演を各学年で 1 回以上実施する（交通事故被害者の方の講話、性に関する講演の中で、生命の尊重・デート DV について等）
- ・ 総合的な学習の時間「地域との関わり」の中で「アイヌ文化について」（1 年）、「障がい・福祉について」（3 年）学び、調べ、発表する。
- ・ 生徒会・学年協議会・各委員会での自主的な活動を促進する。（ゴミ拾いボランティア、他学年交流、いじめ防止川柳等）
- ・ 教科や道徳等を通じての人権学習（「中学生人権作文コンテスト」への応募、「みんなで考えよう子どもの権利」（札幌市子ども未来局発行）を使った学習等）を行う。



### 【実践②】ピア・サポート・プログラムを生かした豊かな人間関係づくり

#### ○ ねらい

ピア・サポートを導入してから 7 年目となり、自己肯定感の維持・向上など、一定のプラスの変容が生徒に見られている。更に学習時の導入を工夫することで、学ぶ必然性や課題意識を感じ、日常生活に生かすことで、支え合い、認め合う豊かな人間関係能力を育成する。

#### ○ 学習内容

- ・ 生徒の発達段階と学習の時期を考慮しながら、各学年約 4～6 時間のピア・サポートトレーニングや実践を行った。以下に本年度の題材名を掲載する。

1 学年	2 学年	3 学年
あいさつで名刺交換 ピア・サポートとは プラスの言葉とマイナスの言葉 あたかな言葉がけ・質問しよう すごくトークング 怒りの温度計 新しい仲間のために歓迎のメッセージづくり	人権について 元祖さっぽろラーメン横丁 うわさ話のわな 友達を勇気付ける言葉がけ 友達の秘密（守秘義務とリファーマー） 送別集会に向けての合唱づくり	人権について 月で遭難したら・・・ すごくトークング(面接 version) 感謝のメッセージ

- ・ 札幌英藍高校ピア・サポート局と本校生徒会との交流会

### 【実践③】教師の人権意識を高める取組

#### ○ ねらい

互いの個性や多様性を認め合う学校づくりのための意識調査や研修

#### ○ 学習内容

- ・性別によらない名簿についての課題意識をアンケート調査を実施し、共有する。
- ・ピア・サポートを授業改善へつなぐための学習会を行う

### (3) 研究のまとめ

#### ① 成果

- ・教育課程全体で、人権教育に取り組んできたことにより、実施前の本校と現在を比べると生徒指導的な問題行動は減少している。全国学力・学習状況調査をはじめとする各種調査でも自己肯定感が高い。生徒アンケートからも「人間関係」「話しやすさ」「思いやり行動」などが良くなっている。
- ・生徒の人間関係形成能力や問題解決能力をより高めていくためには、小中高と連続した学びとなるように、小中高が連携した取組が求められるが、今年度は地域の高校と交流することができた。
- ・性別によらない名簿についての、課題を把握することができた。

#### ② 課題

- ・本校では、ピア・サポート・トレーニングの一部を道徳的価値項目と照らし合わせ、道徳の時間の題材として扱ってきた。今後、道徳の教科化にあたり、道徳として実施・評価するためには、導入展開や内容等を工夫していく必要がある。本校の特色ある取組の一つとして、教育課程全体のバランス等を十分に考慮し、位置付けについて検討していく必要がある。
- ・小中高と連続した学びとなるように、小中高が連携した取組が更に求められる。
- ・ピア・サポートで培った人間関係や共感力を毎日の教科等の学習に活用し、主体的・対話的で深い学びを行うことで、支えあい、認め合う豊かな人間関係能力が一層育成されると考える。今後は、各教科の授業の中で生かしていく工夫を行いたい。

#### ③ 提言「人権教育のすすめ」

- ・人権について考えることは、自分を理解し、社会について学んでいくことである。自分を大切にし、相手の立場や気持ちを理解する上でも必要な学習である。
- ・ピア・サポート・プログラムは子どもたちが自他のことをよりよく理解し、人間関係を円滑にし、学んだ知識を活用し、自発的に他者支援をすることで、相手を思いやる、温かな学校風土の醸成を目指すものである。自分を知り、他者と協力して、課題を解決する力はこれからの社会を生き抜くために、ますます必要となる。何より、子どもたちが自分らしく生きられる環境が整えられる。少ない回数でも効果は期待できるので、できることから始めることをお薦めしたい。